婦人と新社會

山田わか主筆

二月號

母性愛の喜び

樂天主義と悲觀主義

知的モダーンガール

プロレタリアの精神

――編輯の後――

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
昭和二年一月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第八十三號　昭和二年二月一日發行

東京　婦人と新社會　發行

母性愛の喜び

子供を愛する母の喜びより大きな喜びは此の世にはない。子供の笑顔の一ツ〱が母の心を一年づゝ〱若くする。

子供の接ぶんの一ツ〱が母の衣服に日光と月光とを附け加へる。

子供を愛してゐる時に母は最も富んでゐる。子供を愛してゐる時に、貧乏な母はない。醜い母はない。老ひたる母もない。

母と子の接ぶんの交換は、悲しい時の母の目の底の涙を星にする。どんなに働いても母性愛は益々母を美化する。

母と子が相抱擁する處に天國はある。

子供にとつては母は二人ない。そして、それは常に同じ最も美しい母である。

（メーテルリンクの「青い鳥」より）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

樂天主義と悲觀主義

一

樂天家と云へば、いつもニコ〳〵としてゐて人生を樂しんで居るものであり、厭世家と云へば常にしかめ顔して人生を呪ひ悲觀に陷つて居る者とのみ思ふのが普通一般でありますが、併し、偉大なる社會學者であると同時に、一大厭世家であつたグンプロウィッツの意見によりますと、丁度、それとは正反對であります。

哲學に於ての厭世家は先づ例外なく生活に於ては氣樂であり、樂天家は常に苦情を云つて居る者だと云ふのです。

なぜなら、厭世家は此の厄介な世の中に少しも驚かない。彼はよりよき社會を豫期しない。世の中は惡いもの、惡くあらざるを得ないものと合點して、過去も未來も現在も區別せず、不滿を持つ理由を發見しないのみならず、困つた問題や乃至は不可解を自然の喜劇と見て喜んで居るに反して、樂天家は世の中は、よりよくならなければならない、又、よりよくなるものと信じて居るから絶へず失望に遭遇する。よりよき時代を永久に豫想して新しい失望を絶へず經驗し、次から次の絶望に陷つて行く。故に、哲學に於ての樂天家は我々の目には厭世家に見へ厭世家其のまゝの生活を實際に生活して居ると云ふのです。

一體、樂天主義とは自然征服の可能を信ずる者、そして、厭世主義とは其の反對に自然征服の可能を信じない者です。

近世に於て、物質的にも精神的にも偉大な進歩のあつたのは、實に、自然征服の可能を信ず

ると同時に、努力と活動とを充分に續けた一部の樂天家の仕事の結果であつたのです。厭世家は自然征服の可能を信じないから、此の方面の努力も活動もしない。唯、其の時々の必要に應じた努力と活動だけしかしないから、もし、さう云ふ種類の人間ばかりなら、世の中は自然の甚だのろい進歩はあつても、人爲的の目ざましい進歩を見ることは出來ない。

又、自然征服の可能を信ずる樂天家でも、もし、其の信念に伴ふ努力と活動が無かつたならば、やはり、進歩はない。これを一學生に例へて云ふなら、勉強しよう〳〵と思つて居るだけで實際には勉強しない、そして、しようと思つて居ることがして居ることになつてしまつた結果は、いざと云ふ場合ひに何にも出來て居ないのと同じです。

努力と活動の伴ふ自然征服の可能を信じる樂天家の數が殖へ、自然征服の實績が偉大であればある程、進歩は長足になるのでありますが、併し、此處に進歩に對する或る大きな障碍物が這入つて來ました。自然征服に先き立たねばならぬ自然界を觀察することの代りに自然模倣の氣分が澎湃として現代人の心を襲ひました。

自然を觀察して征服せよと云ふことの代りに自然を模倣せよと云ふ主張が有力になつて、そして、自然を征服するための努力と活動を痲痺させてしまいました。

この傾向は政治にも經濟にも勞働問題にも人口問題にも引いては文學教育にも現れて來てゐます。

自然教育とか自由教育とか云ふものは此の自然模倣の病毒にかゝつた結果です。そして、其れは、自然を改造することが進歩で、自然のまゝを增長せしむることは破壞に導くと云ふことを見得ない短見の結果です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二

一度設定された重要な原理に、許しがたき假設論や筋道の違ふ説明をむちやくちやに加へて其の原理を一種の通俗的の信仰と化し、人の活動を好ましからざる方向へと導き、折角決論に到達した一般心理學上の利益を大いに中和させてしまふと云ふ危險が思想界には常にはびこつてゐます。

たとへば、個人の企業には干渉しないと云ふまことに結構な學説なる放任主義もさう云ふ運命に遭遇してゐます。一體、此の放任主義なるものは、自分等自身の利益のために沒頭してゐる少數の治者階級の手のうちに政府があつた時に、民衆を保護するために生れたものでありますが、併しながら、民主々義が勃興して以來、民衆のための其の放任主義は、所謂金權の利用する處となり、民衆を虐げる手段となつてしまいました。

これと同樣な場合ひは數限りなくありますが先づ、此處では一大科學原理に關して云つて見ようと思ひます。つまり、我々人間の思想の上に急激な變化を來した一ッの原理に付てゞあります。

そして、其れは進化の原理であります。これは、極く〳〵小さな例外を除けば科學界の全部が承諾してゐる原理であつて、そして、此の深淵な眞理は全然新しい哲學を生んだ程であります。

そして、その哲學の大部分は徹底的に間違つてゐません。と云ふのは、此の進化の原理を人間に敎へたのは自然界の事實から正當に推理したものであるからです。

處で、全部がさうではなく、其のうちの或る部分は全然間違つてしまいました。何故かと云ふと、其の部分は嚴密な科學的の方法から脱線

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して、そして、正當でない要素や、事實とは調和しない多くの假設論を引き入れて、實際の事實を無視し、臆說しッィには實際の世界には根本に於て無關係な思想の組織を造つてしまいました。

現代科學が現はした凡ての根本眞理を理解しようと努力した現代の實に偉大な哲學者達の書いたもの丶うちに現はされた科學の敎へからのこの脫線は現代の自然崇拜主義と特長づけるのが最も適當でありませう。

科學が我々人間に始めて敎へた偉大なる敎へは自然を知れと云ふことでありました。此の眞理は自然を崇拜する詩人によつて既でにぼんやりと歌はれて居りました。そして、自然と云ふものが研究の主なる目的であると云ふことが明瞭になりました。

科學が人類の上に與へつゝあつた凡ての豐富な幸福は、皆、自然のふところから引き出されたものであります。そして、此處からいろ〳〵の推測が始まりました。そして、その推測からの結論は二つの命令となつて現れました。

其の第一の命令は自然を觀察せよといふ事であり、第二の命令は自然を模倣せよと云ふことです。そして、前者は徹頭徹尾完全で有益であるに反して、後者は間違であり從つて非常に有害でありります。

にも拘はらず、科學乃至哲學の此の第一の命令には多くの人が耳をかさない、從つて、守られない、それに反して、第二の命令の方は一般に承認され廣く應用されるようになりました。其の結果、容易ならぬ誤解が出來上つてしまつて、人間進步の中途を遮ぎつてしまいました。

三

此の有形宇宙は自然法の支配の下にあるので神や惡魔の出來心の支配の下にあるのではない

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふことを天文學や物理學や化學は發見しました。

植物界や動物界は此の見地から研究されるやうになり、そして、人間自身の研究も自然科學のかたちとなり始め、人類學も經濟學も此の性質を帶びて來ました。

社會狀態を改造しようとする觀念はリネウスやクヴィエが確立したものでありますが、併し其れは、變更出來るものでないと信じられてゐた動植物の種を變更しようとした觀念と同じく餘り贊成されませんでした。

自然科學は此の靜的な相を通過せねばならぬと云ふことは當然ではありますが、併し、ラマークやダーウィンが動的生物學を建設して、人爲的に動植物の種を改良する可能性を示した後ですら此の觀念は人間種族の學問及び社會を研究する學問には全然應用されずにゐました。マルサスの經濟學も亦靜的であつて比較的役に立たないものでありますが、今でも猶經濟學は大體に於て靜的で、則ち、現狀說明以上には餘まり効果のない學問となつてゐます。

十九世紀の終りまでの進化哲學者の主なる者スペンサーですら、社會學を自然科學として取扱つてゐるようです。スペンサーは人間の自然的の進步は認めても、併し、其の進步を促進しようとする人爲的の力を否定するのみならず、進步を促す凡ての企てを有害として卑しめてゐました。ですから、スペンサーの此の極端な意見は社會的涅槃の學說だと云つた人がありますが、これは適當な批評だと思ひます。

人事に關する現代哲學の全體の傾向は、結局人事は自然法に從ふべきもので干渉すべきものでないと云ふにあります。干渉は多くの害を爲して、何等の善を爲さないと云ふ主張です。だが、そう主張する社會哲學者は、結果の如何に拘らず自然法に干渉出來ることを認めてゐるの

であるから、自然法を變更すべからざるものとする主張を破壞し、世の中の出來事に影響を與へ得る可能性を認めてゐるのであるから、此處に既でに論理の大きな誤ちがあります。自然を變更すること、則ち、自然を開拓することが進歩だといふ理論が、其の自然を御する企てを禁ずることは矛盾です。そして、こう云へば、其の矛盾は一目瞭然ですが、併し、實際に於ては人々は常に其の矛盾を繰り返へしてゐます。

我々人間の利益のために、自然現象の方向を支配しようとする努力は、決して、科學の精神に矛盾してゐません。科學が人間を利すると云ふことは、所謂自然現象が自然にとる方向を變更したことによつてゞありました。そして、これが凡て有益なる技術の基礎となつてゐる原理であります。

だが、今の人々の進化の法則の解釋は、結局何にもする必要はない、自然に從つて居れと云ふことになります。そして、これは、努力と活動の件はない樂天主義者又はどうせ何にも出來はしないと云ふ悲觀主義者と同じく、凡ての創意、やつてのけやうとする精神に大障碍であります。そして、世界を墮胝に導いて行くものです。

要するに、樂天主義と云ひ、悲觀主義と云ひいづれも半面の眞理しか持つてゐない、故に、これを總合したものが所謂改善主義であります。

自由並びに自由の反對なる命數主義から推測出來る眞理は、如何なる行爲も必ず其れに對する正當な結果を生ずるものであつて、そして、其れは働くことによつてゞあると云ふことです。

進歩は一社會のうちにある傾向と力によるものであるけれども、此の傾向と力の機關並びに代表者は、やはり、社會を構成してゐる人間の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うちにあるに相違ありません。進歩は自動的ではありません。故に、睡眠してゐる社會には進歩はありません　云ひかへれば、社會は社會を構成してゐる人々が善くしようと望み、努力することによつてのみ善くなります。

　して見ると、進歩の根源は物質的ではなく、精神的活動であります。云ひかへれば、進歩的思想則ち働かなければ何物も生れて來ないと云ふ思想と働きとが平行した時に始めて本當の進歩があります。

　進化を崇拜し過ぎる結果は人を怠け者にしました。

　進化は力ではなく、併し、過程です。原因ではなく、併し、法則です。

　進化はものゝ原因を説明し、社會的精力のどうしても全部取り去ることの出來ない制限を指示するものです。併しながら、此の社會的精力則ち文明の建設力其れ自身は、進化によつても其の外如何なるものによつても決して取つて代はられるものでないと云ふことを知つて置きたいと思ひます。

知的モダーンガール

一

「この地方の婦人はまだ〳〵低級ですから難しいことを云つて頂いてもなか〳〵理解致しません。どうぞ其のおつもりで」

とは、地方から講演を乃至原稿を頼まれる殆んどいつでも依頼狀に乃至依賴の口上について來る言葉です。そして、私は、地方の婦人を低級と定義を下す人の頭を乃至文字をいつも見返へして考へます。さう云ふ人

とさう云はれる人との間に果してどれだけの差があるだらうか、と。

　恐らくば、所謂知力的に優れてゐると自信してゐる知的モダーンガール達は、唯、單に、其の時々々に發表される新聞雜誌の評論や文藝ものを讀んだり、又は、社會主義乃至共産主義的な外來思想のはじかけを讀み．じつたり聞きかじつたりしてゐて、そして、さう云ふものに觸れてゐない婦人達を低級と定めてしまつてゐるのではないでせうか。

　勿論、讀んだり聽いたりしない人達よりも讀んだり聽いたりしてゐる人達の方が優秀になり得るには相違ないでせうが、併し、其の讀んだもの、聽いたものが其の人のものになりきつてしまはなければならない。そして、其の人のものになる、ならないは其の人の實生活によつて定まる。ですから、其の人の實生活がまとまつてゐないならば、どんなに讀んだり聽いたりしても其れは何にもならない。

　其處で、讀んだり聽いたりはしてゐなくても實際生活をまとめてゐる人の方が人としては遙かに優秀であります。

　唯、單に、流行を追ふてゐる者が優秀で、流行を追ふような輕薄な態度に出ることができない者が低級だなど丶云ふのは余まりに不合理です。

　人間の優劣は決してそんなことで定まるものではありません。

二

　要するに、自己の實生活はまとめてゐるが併し新知識に觸れてゐない婦人達を無理解とか低級とか云つてさも自分が優秀であるように思ひ上がつてゐる人々はまだ世の中の經驗にはとぼしく乃至は社會の單なる一小部分を見て其れを社會の全部と錯覺してゐる。云ひ直せば、知力萬能の迷信から來てゐるのでありませう

　知力萬能と云ふことに付ては一ツの有名な話があります。そして、それは、目に文字がある程の人は誰でも知つてゐる偉大な哲學者キヤントに付てゞあります

　一體、キヤントは非常にキチヨウメンな人で、寢る時間起きる時間散歩する時間が時計の針のようにきまつてゐました。長い間、晴つても降つても毎日々々キ

ナンと同じ時間に散歩に出かけるので、ツイには近所の細君達がキヤントを時計の代りにしてしまいましたが、或る一日キヤントは其の散歩に出かけませんでした。どう云ふ異變がキヤントの身の上に起つたかと云ふと、實は、異變が起つたのではなく、ルソーの書いた「エミール」と云ふ本が届き、其れを繙いた處が其れが大きな感動を彼に與へたので、とう／＼其れに讀み耽つてしまつたのです。

世界最大なる知者と稱され、又、現にさう認められてゐる偉大なる哲學者キヤントが民權家なるルソーの書いたもののどう云ふ點に其れ程感動したかと云ふと其れ迄はキヤントは、知力の發達を最高のものとし、進歩は一ツにかゝつて知力の發達にありとしてゐました。處が、彼は、ルソーから知力の發達とは、或る程度までは、無關係に人間の價値を計る他の標準な學びました。

即ち、無知であ　と云ふ理由で民衆を卑しめてばならないと云ふ事を學んだので　。つまり、文明と云ふ形式即ち知力と云ふ着物の下に余まりに度々蔽はれてしまつてゐる人間性をルソーが如實に現はしたのです。

三

さすがに、世界で最も偉大な知者なるキヤントですら、一時は、無學の故をもつて民衆を卑しめたのですけれども、ルソーの力によつて彼はたちまち其の非を悟り、そして、人間の眞の價値を掴むことに急ぎました。

ですから、少しばかりの知識に觸れた人々が、全然知識に觸れない人々よりも自分が優秀であるように考へるのも無理はないかも知れませんが、併し、彼等は一日も早く其の蒙をひらき人間の眞の價値を見る目を養はなければならないと思ひます。

彼等が、今、無學であると云ひ、低級だとして卑しんでゐる一般地方婦人が却つて人間としての自然の價値を現してゐるに反して、彼等自身は僞物であり、未製品であると云ふ處に氣付くならば、少しばかり持つてゐる知識も生きて來るし、且ツ、增大して行きませう。

知識は滿足しないことによつて成長し、然性は人を

章しめないことによつて大きくなります。

まだ〳〵疑ひ最中にある乃至は研究最中にある社會理論に囚はれてしまつて、人間の本當の價値を見逃してしまはないように、今の所謂新知識に目覺めたと自稱する青年男女は大いに注意する必要があります。

プロレタリアの精神

英國の或る學者の話でありますが、彼の友人の一人に單なる勞働者がありました。此の勞働者が職を失つて家計困難に陷つてゐる時、彼は家賃のたしにもと思つていくちかの金子を其の勞働者に融通しました、處が、其の翌日其の勞働者の妻が融通した金をソツクリ手紙を添へて返しました。其の手紙に曰く『御親切は誠に有りがたう御座いますが、私共が確立し、そして守らねばならぬものは獨立の觀念です。私共が其の獨立を失つてしまうならば、私の夫を始め私の家族の全部が生活の意義を失つてしまひます。もし、私の夫が同時に私共があなたに支へられると云ふ習慣を持つてしまうならば、私が夫や子供の獨立の觀念を弱くしようとしてゐた日頃の努力は皆無駄になつてしまひますお金を融通して頂いて日々の生活に差し支へが無いと云ふことになれば、私の夫は仕事を探すことを止めてしまふかも知れません。そしてそれは實に恐ろしいことです。私の夫は、今、失望して、不愉快な日を送つてゐます。けれども、彼の此の失望と不愉快を癒やす藥は斷じて友人から借りたり貰つたりする金子ではなく、自分の腕を働かせる仕事です。ですから、あなたの御親切に對しては本當に感謝の言葉はありませんが併し、其の御親切によつて私が一生懸命守らせようとした、獨立の精神をにぶらせられるようなことがあつては御親切が却つてあだとなります。妻たり母たる者

の苦心を御賢察あつて、どうぞ惡しからず……」
何と云ふ素晴らしい意氣を此の勞働者の妻は持つてゐるではありませんか。

夫が持つて來る金の性質を知らずに、唯、金の額を見て喜び、榮華に耽ろうとする婦人は、此の勞働者の妻の手紙を見て慚死すべきです。

「世間は往々軍人の勇氣を謳歌する。そしてそれは正しい。けれども、或る時を限られての此の軍人のこの勇氣は、四六時中不變不斷に夫のため子供のために働いてゐる家庭婦人の勇氣に比較した時には小さいものになつてしまう、母は單身で最も烈しい戰ひを常に續けてゐる。彼女は決して止む時のない龍嗜の義務も第二義の義務も一人で勤めてゐる……黎明を求めながらくらやみの危險な道をよぢ登りつゝある間、それは必ず來ることは分つてゐても、併し、遂に長く思へて失望に陷りそうになる時に、我々を慰め、我々に希望を與へるものは、愛するが故に日々勇敢に働きつゝある母が家庭にゐると云ふ考へである」とは本誌第七十九號の卷頭に書いて置きましたが、實に、それは、今此處に擧げた勞働者の妻であり母であるような婦人に對して云ふ言葉であります。

プロレタリアと云ふ眞の言葉の意味は一般には正しく了解されて居ないようですが、此の勞働者の妻こそプロレタリアの精神を徹頭徹尾體得して居る者であります。

○

一體、プロレタリアとは、徒らに有產階級に反抗しようとするものではないのです。富の力で社會に立たうとするのではなく、知力に生きようとするのでもなく、勞働をもつて社會に立たうとする階級を差してプロレタリアと云ふとは一般に了解されてある處ですが同時に「自分は勞働によつて社會に立つ、自分は社會と云ふ建物の內の一つの煉瓦である。一つの煉瓦としての効力を自分は社會に提供しなければならない。即ち、有產者が其の富を有益に運用するように、知者が其の知力を社會の福利のために活用するように、自分は自分の勞力を有効に使用しなければならない。自分の持つ勞働力を社會の幸福のために全部提供すると同

時に、自分の私生活の安定を要求する。萬人共通の正義に立脚して、充分に働き、同時に、正しき幸福なる生活を要求する。そして、此の働きと幸福なる生活を脅威するものは、それが何てあれ、不正なりとしてあく迄も戰ふ」と云ふのが、本當のプロレタリアの精神です。

こう云ふ正しい强い精神の前には富者も知者も頭を下げなければなりますまい。そして、前述の勞働者の妻は、實に、此の精神の持主です。

○

私の主人が歐洲を旅行してゐた時に、佛蘭西の一農夫と語り合ふ機會を持ちました。其の農夫が全然政治には無關心でゐるのを知つて、主人が『あなた方が政治に對してそんなに無頓着で居ても政治上不都合なことは起りませんか？』と尋ねました『いや、政治屋なんてものは外に使ひ道のない人間共ですよ。政治にでもたづさはらせて置かなければ、何をするか分らない惡いいたづらばかりするから、其の惡戲をさせないために國民が養つて置くんですよ、だから、彼等が許された範圍内で仕事をしてゐる限り我々農夫は何にも干渉はしません。だが、一朝、彼等が爲すべからざることを仕でかしたが最後、我々農民は彼等の首つたまをひつつかまへて動けないようにしますよ。我々佛蘭西農民には其れだけの度量と力がありますよ』との答へだつたそうです。

此の佛蘭西農夫の政治家に對する態度は、丁度、いたづらつ子に對する寛大な親の態度です。うつちやつて置けば惡戲をするから、金はかゝつても害にならないおもちやを與へて置く。が、それでも惡いことをすれば、止むを得ないから其のおもちやも取り上げてしまうと云ふ行き方です。

○

實に、私共婦人として欲しいもの、どうしても持たればたらぬものは前述の勞働者の妻の意氣と、佛蘭西農夫の政治家に對する態度です。もし、佛蘭西農夫のような聰明さと寛大さが婦人にあるならば、政治は全然男子に任せて置いても不都合はない筈です。けれども、我が國の實狀であるような、政治家が何をしてゐ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るやらも知らず、又、彼等のすることが正であれ不正であれ彼等の意志に婦人が盲從してゐる處を見せられたのでは、實際、泣くにも泣かれないなさけなさを感じます。

私共女性は、學者よりも勞働者よりもり貴い、人類の母であると云ふことを自覺したい。

母の貴い犠牲、絶對に必要なる勞働は餘まりに度々男子から社會から無視されてゐました。少數の母の貴い犠牲、絶對に必要なる勞働も、大多數の愚かしい妻賢しこからざる母の愚劣な行ひによつて忍ひかくされてゐたことは事實です。

母性の眞の光りを覆ふてゐるこれ等の愚劣な行ひと云ふ雲を拂ひ除けることに努力しなければならない。

太陽の光線がふんだんであるだけ、それだけ、植物の實りがよいと同じように母性愛の光りが明らかになるだけつゝ、それだけ、此の世の中は輝やかしいものになつて行きます。

○

「朝から晩まで働いてゐる母は、其の雜多の仕事のために、精神的の向上の道を閉ざされてゐる」と云ふようやうな事はよく聞かされる言葉です。が、これに私は贊成する事が出來ません。なぜなら、少くとも、子供を學校に出してしまつた後は、むしろ、母は淋しさを感じる位いです。のみならず、毎日々々してゐて、慣れてしまつてゐる手仕事は決して、思考力を阻みません。

眞面目に働きつゝ眞面目に考へつゝある母の口から發せられる言葉は、言ひ直せば、眞劍な生活から生れ出づる言葉は、見聞の廣い云ひ直せば常に世間をとび廻つてゐて、淺薄にいろ〳〵なことを知つてゐる人々の言葉よりも遙かに重みがあり傾聽に價ひするものではないでせうか。

夫や子供は絶へず世間に接觸し、交渉を持ち、從つて、いろ〳〵の影響―多くの場合は惡い影響―を受けつゝあるに反して、母は全く其等の影響なしに家庭内にゐて、夫や子供とは全く異つた精神生活を保持してゐて、そして其の純粹な精神生活が夫や子供に好感化力となる、又、ならればならぬものではないでせうか。

編輯の後

◎本誌創刊當時、長男民郎は、まだ十四歳でありましたが、父に教へられて雜誌發送のことからカードの整理から其の他一切の責任を負ふて吳れるやうになつてゐました。

けれども、一昨年の春、中學校を出ましてから昨年の春まで小學校教員養成所へ入所してゐて、昨年教員としての資格をとり、四月から十一月三十一日まで深川の東川小學校へ奉職してゐました處、昨年十二月一日近衛步兵第一聯隊へ一年志願兵として入營致しました。

最初から本誌にかゝはつて居りましたのが、今、軍務に服役するようになりましたので、今迄、助手のかたちであつた次男の舜一郎が主もに事務をとつて居ります。此の人は昨年中學を出てから、美術學校入學が希望で川端畫學校へ通學し、其の準備をして居ります。

◎「雜誌代を以前は集金郵便で時々取りたてられたが此の頃はいつにも其の集金郵便も來ないし、一體、私の誌代はいつ頃まで拂ひ込んであるのか御調べを願ふ」と云ふような御小言のような御手紙を折り〳〵頂きます。けれども集金郵便制度が改正になりましてから三圓以下は取り扱つて吳れません。從つて、集金郵便を出すとすると一度に三年分頂かなければならず、こんな小さい雜誌で―小さいとは云へ、併し、本誌獨特の使命は果してゐると信じます。―一度に三圓も御請求することはすまないような心持ちが致しますので大正十二年から今日までツイ其のまゝになつて居ります。ですから、一年分位いづゝ振替なり爲替なりで御送り願へますなら本當に有りがたいと思ひます。

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

▼誌代及郵税は前金の事▼御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと▼郵券代用は五厘切手にて一割增▼廣告は御照會次第御相談いたします

昭和二年一月廿三日印刷納本
昭和二年二月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN